

厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）
分担研究報告書

「認知的ソーシャルキャピタルの妥当性検討」

研究代表者 中込 敦士（千葉大学予防医学センター 社会予防医学研究部門）
研究分担者 安福祐一（大阪大学大学院 医学系研究科 医療データ科学共同研究講座）
研究協力者 竹内寛貴（千葉大学予防医学センター 社会予防医学研究部門）

研究要旨：本研究の目的は、高齢者における認知的ソーシャルキャピタルの主要構成要素「信頼」「互酬性」「地域愛着」と健康・ウェルビーイングとの関連を明らかにするとともに、国際比較可能な日本語版 SC 指標を開発することである。研究 1 では、日本老年学的評価研究（JAGES）の 2016・2019・2022 年の縦断データを用い、約 4 万人の高齢者を対象にアウトカムワイド分析を実施。信頼・互酬性・愛着は、幸福感、生活満足度、精神・身体的健康、人生の意味・目的、生きがい、対人関係の満足度など、幅広い健康・ウェルビーイング指標と有意に関連していた。3 指標の関連は概ね類似し、認知的ソーシャルキャピタル全体としての妥当性も示唆された。研究 2 では、海外の主要調査と調和したソーシャルキャピタル指標に基づき日本語の新規質問項目を作成し、2024 年 12 月実施の JACSIS 調査に導入した。信頼・互酬性・愛着は、認知的ソーシャルキャピタルを測定する有効な指標であり、限られた調査資源下では、いずれか 1 つを代表指標として用いることも実用的と考えられる。また、本研究で開発した国際比較可能な指標は、今後の研究や政策立案に有用な基盤となる可能性がある。

A. 研究目的

ソーシャルキャピタル（Social Capital）は、ネットワークやグループに属することで個人が得られる資源と定義され、一般に「認知的ソーシャルキャピタル」と「構造的ソーシャルキャピタル」に大別される（Berkman et al., 2014）。認知的ソーシャルキャピタルは、コミュニティに対する「信頼」や「互酬性」「愛着」などの認識や態度を指し、構造的ソーシャルキャピタルは、社会参加や社会的ネットワークそのものを指す。

近年、高齢者の健康増進や幸福度（ウェルビーイング）の向上のために、認知的ソーシャルキャピタルが果たす役割が注目されている。健康日本 21（第三次）では、「地域の人々とのつながりが強いと思う」という項目を指標とし、認知的ソーシャルキャピタルの向上を目標としている。一方、健康日本 21（第二次）の最終評価報告書では、ソーシャルキャピタルについて「健康指標と関連するのか、予測妥当性等に関する科学的知見があるのか明らかではない」と指摘され、領域全体の課題として、「今後の指標の設定に当たっては、エビデンスに基づいて健康寿命等、健康日本 21 が掲げる指標と関連のあるソーシャルキャピタル指標を検討することが望まれる」とされている。

また、認知的ソーシャルキャピタルは、従来、信頼、互酬性、愛着で評価されることが多いが、「地域の人々とのつながりが強いと思う」は既存データでの検討が困難である。また、Bonding social capital に代表される強すぎるつながりには、その閉鎖性や内向性による負の側面も存在することが知られており（Porte 1998）、異なる社会的集団を繋ぐ緩いつ

ながり(weak ties)としての Bridging social capital をとらえることの重要性が指摘されている。評価法の妥当性を検討するために、現状の設問、緩いつながりをとらえる設問、信頼、互酬性、愛着を同時に評価する調査票を用いた調査を行い、どの設問から作成した変数が個人の健康指標とより強い関連を示すのか検討が求められている。

そこで本研究では、これまで高齢者を対象にした大規模調査で取得されてきた認知的ソーシャルキャピタル指標である、「信頼」「互酬性」「愛着」について、認知的ソーシャルキャピタルと包括的な健康・ウェルビーイング指標との関連を評価することを目的としたアウトカムワイド研究を実施した。また、現在健康日本 21 に採用されている、「地域のつながりの強さ」が認知的ソーシャルキャピタル指標として適切なのか検証する必要がある。本研究ではこの指標と、他の候補指標として国際比較にも適用可能な指標の日本語指標を開発し、大規模調査への導入を行うことを目的とした。

B. 研究方法

研究1：認知的ソーシャルキャピタルと健康・ウェルビーイングとの関連：JAGES アウトカムワイド研究

本研究は、日本老年学的評価研究（JAGES）2016・2019・2022 年の縦断データ使用したアウトカムワイド研究である。対象は 2016 年時点で要支援・要介護認定を受けておらず、3 時点の調査に回答した 65 歳以上の 41,758 人と、2022 年度までの要介護認定データと結合可能だった 56,153 人。目的変数は 2022 年の Happiness and Life Satisfaction、Mental and Physical Health、Meaning and Purpose など 7 領域にわたる 46 指標を用いた。説明変数は 2019 年時点の認知的ソーシャルキャピタル（信頼・互酬性・愛着）の 3 指標とし、調整変数は人口統計学的要因や 2016 年のアウトカムなどの 43 変数を用いた。回帰分析を実施し、ボンフェローニ法で補正（ $p: 0.05/46=0.0011$ ）した。

（倫理面への配慮）

本研究は、千葉大学、国立長寿医療研究センター、日本老年学的評価研究機構の倫理審査委員会の承認を得て実施した。

研究2：国際比較可能な認知的ソーシャルキャピタル指標の日本語版開発

1. 日本語版認知的ソーシャルキャピタルの作成

MEDLINE、Cochrane CENTRAL、医学中央雑誌等のデータベースの検索またはハンドサーチにより収集した既存の論文、政府調査機関や研究者等がホームページ等で公開している社会調査に関する情報、その他関連書籍等からの情報収集を通じて、国内外で用いられている主要な認知的ソーシャルキャピタルやコミュニティ感覚（Sense of Community）の評価指標に関する情報を収集し、そのうち本邦において活用されている主な認知的ソーシャルキャピタル指標について一覧として整理した。

2. ソーシャルキャピタルの国際比較を見据えた認知的ソーシャルキャピタル指標（日本語版）の新規作成

既に国外の社会調査に含まれている認知的ソーシャルキャピタル指標のうち、Health and Retirement Study (HRS)、English Longitudinal Study of Ageing(ELSA)、The Irish Longitudinal Study on Ageing (TILDA)の3つの社会調査間での設問のハーモナイズが完了している4つの認知的ソーシャルキャピタル指標を元に、国際比較を見据えた新たな認知的ソーシャルキャピタル指標の日本語版を作成した。翻訳手順については、Cruchinho ら (J Multidiscip Healthc, 2024) 等の報告を参考とした。順翻訳の過程では、4名の研究者が独立して順翻訳を行い、その翻訳結果を集約して最終的な1つの順翻訳を完成させた。逆翻訳については、英語を母国語とする研究者に対して順翻訳された認知的ソーシャルキャピタルの調査票を提供し、翻訳を依頼した。逆翻訳された内容を各研究者が確認し、最終的な認知的ソーシャルキャピタル指標の日本語版とした。

3. 認知的ソーシャルキャピタル指標の妥当性検証に向けた大規模調査の実施

既存の認知的ソーシャルキャピタル指標ならびに本研究課題において新規作成した指標の妥当性について検討するため、2024年12月から翌年1月にかけて実施されたインターネットを通じた社会調査「日本における新型コロナウイルス感染症（COVID-19）問題および社会全般に関する健康格差評価研究（JACSIS）」にこれらの指標を収載し、地域住民からの各種認知的ソーシャルキャピタル指標の回答を得た。

（倫理面への配慮）

JACSIS は、東北大学における倫理審査の承認を得て実施された（研究代表：田淵貴大、整理番号：2024-1-517）。

C. 研究結果

研究1：認知的ソーシャルキャピタルと健康・ウェルビーイングとの関連：JAGES アウトカムワイド研究

「信頼」が普通、低い、高い者毎の記述統計を表1に示す（基本属性および、2016年時点の健康アウトカムと認知的ソーシャルキャピタル）。信頼が高い群は、より高い教育歴、結婚割合、収入、就労割合を示した。この結果は、「互酬性」および「愛着」でも同様であった。

次に、認知的ソーシャルキャピタルと健康・ウェルビーイングとの関連を検証した。その結果、信頼、互酬性、愛着は一貫して複数の健康とウェルビーイング領域と関連していることが示された。ここでは、主に信頼を説明変数とした際の結果を示す（図1）。信頼が高い人は、ウェルビーイングの総合指標である Human flourishing（人間の繁栄）のスコアが高かった（ $\beta = 0.11$, 95% 信頼区間（CI）: 0.08-0.14, $p < 0.001$ ）また、幸福感（ $\beta = 0.08$, 95% CI: 0.06-0.10, $p < 0.001$ ）および生活満足度（ $\beta = 0.09$, 95% CI: 0.06-0.12, $p < 0.001$ ）も高かった。

精神的・身体的健康の面では、信頼が高い人ほど、自己評価による精神的健康（ $\beta = 0.09$, 95% CI: 0.06-0.12, $p < 0.001$ ）および自己評価による身体的健康（ $\beta = 0.08$, 95% CI:

0.05-0.11, $p < 0.001$) が良好であった。また、抑うつ ($\beta = -0.09$, 95% CI: -0.11--0.07, $p < 0.001$)、絶望感 (オッズ比 = 0.83, 95% CI: 0.78-0.87, $p < 0.001$)、孤独感 ($\beta = -0.09$, 95% CI: -0.12--0.05, $p < 0.001$) は低かった。

人生の意味や目的に関して、信頼が高い人は、人生の意味 ($\beta = 0.09$, 95% CI: 0.06-0.12, $p < 0.001$) や人生の目的 ($\beta = 0.07$, 95% CI: 0.04-0.10, $p < 0.001$) が高かった。また、生きがい ($\beta = 0.08$, 95% CI: 0.05-0.11, $p < 0.001$) も、信頼が高い人ほど高い傾向を示した。

社会的ウェルビーイング も信頼と関連していた。信頼が高い人は、友人関係の満足度 ($\beta = 0.10$, 95% CI: 0.07-0.13, $p < 0.001$) や人間関係の満足度 ($\beta = 0.12$, 95% CI: 0.10-0.15, $p < 0.001$) が高かった。また、友人・知人と会う頻度が高く ($\beta = 0.08$, 95% CI: 0.06-0.10, $p < 0.001$)、ひと月に友人と会う人数が多いことが示された ($\beta = 0.08$, 95% CI: 0.06-0.10, $p < 0.001$)。

研究2：国際比較可能な認知的ソーシャルキャピタル指標の日本語版開発

現在、本邦で用いられている主要な認知的ソーシャルキャピタル指標の一覧を表2に示す。

HRS、ELSA、TILDA の3つの社会調査間での設問のハーモナイズが完了している4つの認知的ソーシャルキャピタル指標を、国際比較での活用を見据えた新たな認知的ソーシャルキャピタル指標と設定し、日本語版を作成した。そして2024年12月から2025年1月にかけて実施されたJACSISに導入した（実際の設問は図2に示す）。

D. 考察

研究1では、日本の高齢者を対象とした縦断研究を用い、認知的ソーシャルキャピタルと健康・ウェルビーイングとの関連を包括的に検討した。研究1の分析から、2つの主要な知見が得られた。研究2では、本邦で用いられている指標と、新たな指標の日本語訳を作成し、認知的ソーシャルキャピタルの指標の候補を選定した。

研究1の知見1：認知的ソーシャルキャピタルは、7つ全ての領域にわたる複数の健康・ウェルビーイングの指標と有意に関連していた。具体的には、信頼、互酬性、愛着は、幸福感、生活満足度、自己評価による精神的・身体的健康、人生の意味や目的意識といった「人間の繁栄 (Human Flourishing)」の構成要素と正の関連を示した。さらに、認知的ソーシャルキャピタルは、抑うつ症状、絶望感、孤独感の低さとも関連していた。また、認知的ソーシャルキャピタルが高い人は、3年間にわたり社会的つながりやサポートを維持していた。

研究1の知見2：信頼、互酬性、愛着の3要素は、健康および幸福感との関連性において類似したパターンを示しており、認知的ソーシャルキャピタルの構成要素間で一貫した関連があることが明らかになった。

研究2の知見：本邦で用いられている既存の認知的ソーシャルキャピタル指標は多様で

あり、認知的ソーシャルキャピタルの一部または複数の構成概念を同時に評価する指標も存在する。しかし、これらの指標の妥当性検証は必ずしも十分に行われていない。今後、本研究において作成した新規の認知的ソーシャルキャピタル指標と既存の国内外の同指標との関連等について分析することにより、より妥当な認知的ソーシャルキャピタル指標の選定にあたっての示唆を得ることが期待される。

E. 結論

本邦で用いられている既存の認知的ソーシャルキャピタル指標は多様であり、指標の妥当性や国際比較への適用可能性の検証は十分でない。本研究は、信頼、互酬性、愛着の3つの認知的ソーシャルキャピタルについて、健康およびウェルビーイングとの関連において類似したパターンを示しており、将来の健康を予測する指標の有用性を支持する一方で、質問票のスペースが限られている場合などではこれらの指標のいずれか1つを選択することも実用的な手段であることを示唆している。

一方で、現状は高齢者の検証に留まっており、より多くの国民に適用可能な認知的ソーシャルキャピタルの評価指標の確立とともに、国内外で用いられている認知的ソーシャルキャピタル指標の比較や妥当性検証の取り組みが必要であると考えられる。

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

第35回日本疫学会学術総会（口頭発表）

H. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

1. 特許取得

非該当

2. 実用新案登録

非該当

3. その他

非該当

引用文献

1. Berkman, L.F., Kawachi, I., Glymour, M.M., 2014. Social Epidemiology (2 edn). Oxford University Press. <https://doi.org/10.1093/med/9780195377903.001.0001>
2. Portes, A., 1998. Social Capital: Its Origins and Applications in Modern Sociology. *Annu Rev Sociol* 24, 1-24. <https://doi.org/10.1146/annurev.soc.24.1.1>
3. Cruchinho, P., López-Franco, M. D., Capelas, M. L., Almeida, S., Bennett, P. M., Miranda da Silva, M., Teixeira, G., Nunes, E., Lucas, P., & Gaspar, F. (2024). Translation, Cross-Cultural Adaptation, and Validation of Measurement

Instruments: A Practical Guideline for Novice Researchers. Journal of Multidisciplinary Healthcare, Volume 17, 2701-2728.

<https://doi.org/10.2147/JMDH.S419714>

表 1. 2019 年時点の認知的ソーシャルキャピタル（信頼）別にみた、2016 年調査に基づくベースライン前の特性（2022 年調査にリンクされた欠損のない分析対象者 [n = 41,093]）

Characteristic	全体 Overall, N = 41,093 ¹	普通 N = 9,707 ¹	低い N = 1,238 ¹	高い N = 30,148 ¹
互酬性 ¹				
普通	14,509 (35.6%)	6,986 (72.5%)	233 (19.1%)	7,290 (24.4%)
低い	3,518 (8.6%)	1,425 (14.8%)	901 (73.7%)	1,192 (4.0%)
少ない	22,759 (55.8%)	1,224 (12.7%)	89 (7.3%)	21,446 (71.7%)
愛着 ¹				
普通	5,508 (13.4%)	3,201 (33.1%)	296 (24.0%)	2,011 (6.7%)
低い	1,758 (4.3%)	867 (9.0%)	488 (39.5%)	403 (1.3%)
少ない	33,693 (82.3%)	5,598 (57.9%)	451 (36.5%)	27,644 (92.0%)
年齢	72.5 (5.1)	72.3 (4.9)	72.6 (5.0)	72.6 (5.1)
性別 ¹	19,633 (47.8%)	4,286 (44.2%)	541 (43.7%)	14,806 (49.1%)
教育歴 ¹				
6 年未満	125 (0.3%)	38 (0.4%)	12 (1.0%)	75 (0.3%)
6～9 年	10,637 (26.1%)	2,893 (30.1%)	436 (35.9%)	7,308 (24.5%)
10～12 年	18,178 (44.7%)	4,305 (44.8%)	528 (43.4%)	13,345 (44.7%)
13 年以上	11,744 (28.9%)	2,366 (24.6%)	240 (19.7%)	9,138 (30.6%)
婚姻状況 (婚姻あり) ¹	31,756 (77.8%)	7,066 (73.3%)	835 (68.9%)	23,855 (79.6%)
等価所得	2.573 (1.6)	2.373 (1.5)	2.059 (1.4)	2.653 (1.6)
就労状況 ¹				

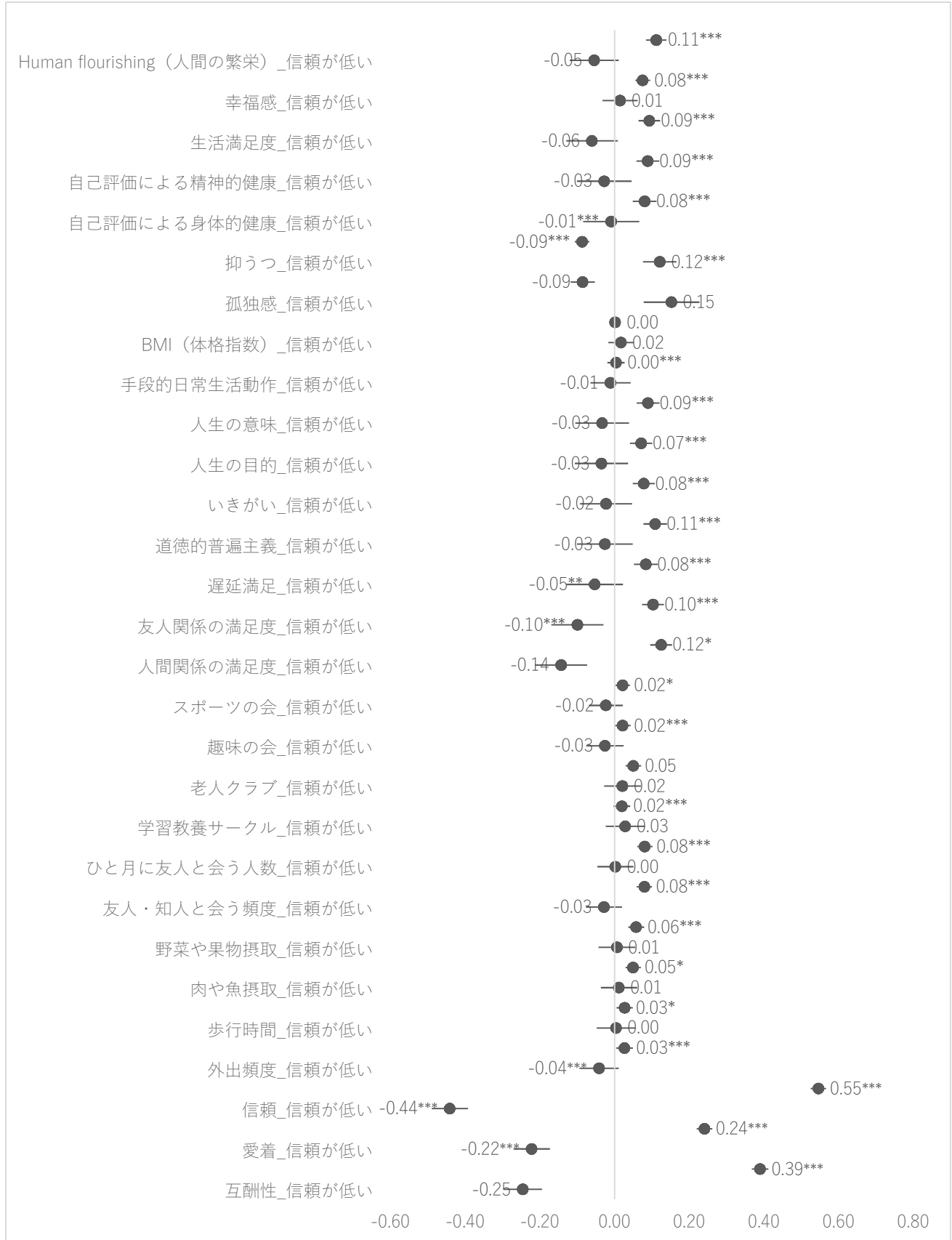
Characteristic	全体 Overall, N = 41,093 ¹	普通 N = 9,707 ¹	低い N = 1,238 ¹	高い N = 30,148 ¹
就労している	11,479 (31.8%)	2,633 (31.6%)	324 (31.9%)	8,522 (31.9%)
退職して現在就 労していない	22,391 (62.1%)	5,169 (62.0%)	629 (61.9%)	16,593 (62.1%)
職に就いたこと がない	2,205 (6.1%)	540 (6.5%)	63 (6.2%)	1,602 (6.0%)
家族構成 (同居) ¹	34,273 (87.3%)	7,767 (84.3%)	914 (77.8%)	25,592 (88.6%)
Activities of daily-living (非自立) ¹	803 (2.1%)	254 (2.8%)	52 (4.5%)	497 (1.7%)
残歯数	2,274 (5.7%)	560 (5.9%)	84 (7.0%)	1,630 (5.5%)
主観的健康感 ¹	36,744 (91.0%)	8,375 (88.1%)	980 (80.9%)	27,389 (92.3%)
BMI (体格指数)	23.0 (3.0)	23.0 (3.1)	23.2 (3.3)	22.9 (3.0)
Instrumental activities of daily living	4.9 (0.4)	4.9 (0.4)	4.9 (0.4)	4.9 (0.3)
高血圧 ¹	17,201 (43.6%)	4,099 (44.2%)	537 (45.3%)	12,565 (43.3%)
糖尿病 ¹	4,819 (12.2%)	1,215 (13.1%)	165 (13.9%)	3,439 (11.8%)
脂質異常症 ¹	6,320 (16.0%)	1,518 (16.4%)	184 (15.5%)	4,618 (15.9%)
心血管疾患 ¹	3,327 (8.4%)	821 (8.8%)	116 (9.8%)	2,390 (8.2%)
脳卒中 ¹	858 (2.2%)	236 (2.5%)	35 (3.0%)	587 (2.0%)
呼吸器疾患 ¹	1,645 (4.2%)	408 (4.4%)	77 (6.5%)	1,160 (4.0%)
抑うつ	2.4 (2.7)	3.2 (3.2)	4.4 (3.7)	2.1 (2.4)
絶望感 ¹	4,219 (10.6%)	1,595 (17.1%)	360 (30.2%)	2,264 (7.7%)

Characteristic	全体 Overall, N = 41,093 ¹	普通 N = 9,707 ¹	低い N = 1,238 ¹	高い N = 30,148 ¹
幸福感	7.4 (1.8)	6.9 (1.9)	6.5 (2.2)	7.6 (1.7)
生活満足度 ¹	35,866 (89.0%)	7,765 (82.2%)	848 (70.3%)	27,253 (92.0%)
趣味の会	2.4 (1.7)	2.2 (1.6)	2.1 (1.6)	2.5 (1.7)
スポーツの会	2.3 (1.8)	2.1 (1.7)	1.9 (1.6)	2.4 (1.8)
老人クラブ	1.3 (0.8)	1.2 (0.7)	1.2 (0.7)	1.3 (0.9)
学習・教養サークル	1.4 (0.9)	1.3 (0.8)	1.2 (0.7)	1.4 (0.9)
友人・知人と会う頻度	3.8 (1.5)	3.5 (1.6)	3.5 (1.7)	3.9 (1.5)
ひと月に友人と会う人数	3.7 (1.3)	3.4 (1.4)	3.2 (1.4)	3.8 (1.3)
外出頻度	5.7 (0.6)	5.7 (0.7)	5.6 (0.8)	5.7 (0.6)
情緒的サポート	39,066 (96.2%)	8,984 (93.9%)	1,095 (89.8%)	28,987 (97.2%)
手段的サポート	39,096 (96.3%)	8,991 (93.9%)	1,093 (89.6%)	29,012 (97.3%)
現在の喫煙状況	3,888 (9.6%)	1,017 (10.6%)	130 (10.7%)	2,741 (9.2%)
現在の飲酒状況	17,274 (43.0%)	3,826 (40.4%)	444 (36.9%)	13,004 (44.1%)
野菜や果物摂取	6.2 (0.9)	6.1 (1.0)	6.0 (1.1)	6.3 (0.9)
肉や魚摂取	5.4 (1.1)	5.3 (1.1)	5.2 (1.2)	5.5 (1.0)
歩行時間	2.4 (1.1)	2.3 (1.1)	2.3 (1.1)	2.4 (1.0)
検診受診の有無 ¹	27,487 (68.0%)	6,215 (65.4%)	745 (61.0%)	20,527 (69.1%)
信用	3.8 (0.7)	3.3 (0.6)	2.7 (0.9)	4.0 (0.6)
愛着	4.0 (0.8)	3.6 (0.8)	3.2 (1.1)	4.2 (0.7)
互酬性	3.5 (0.8)	3.1 (0.7)	2.6 (0.9)	3.7 (0.7)

Characteristic	全体 Overall, N = 41,093 ¹	普通 N = 9,707 ¹	低い N = 1,238 ¹	高い N = 30,148 ¹
都市度 ¹				
<1,000	11,541 (28.1%)	2,650 (27.3%)	418 (33.8%)	8,473 (28.1%)
1,000~4,000	14,293 (34.8%)	3,211 (33.1%)	383 (30.9%)	10,699 (35.5%)
≥4,000	15,259 (37.1%)	3,846 (39.6%)	437 (35.3%)	10,976 (36.4%)

¹n (%) ; Mean (SD)

図1 認知的ソーシャルキャピタルの「信頼」と2022年時点の健康・ウェルビーイングとの関連



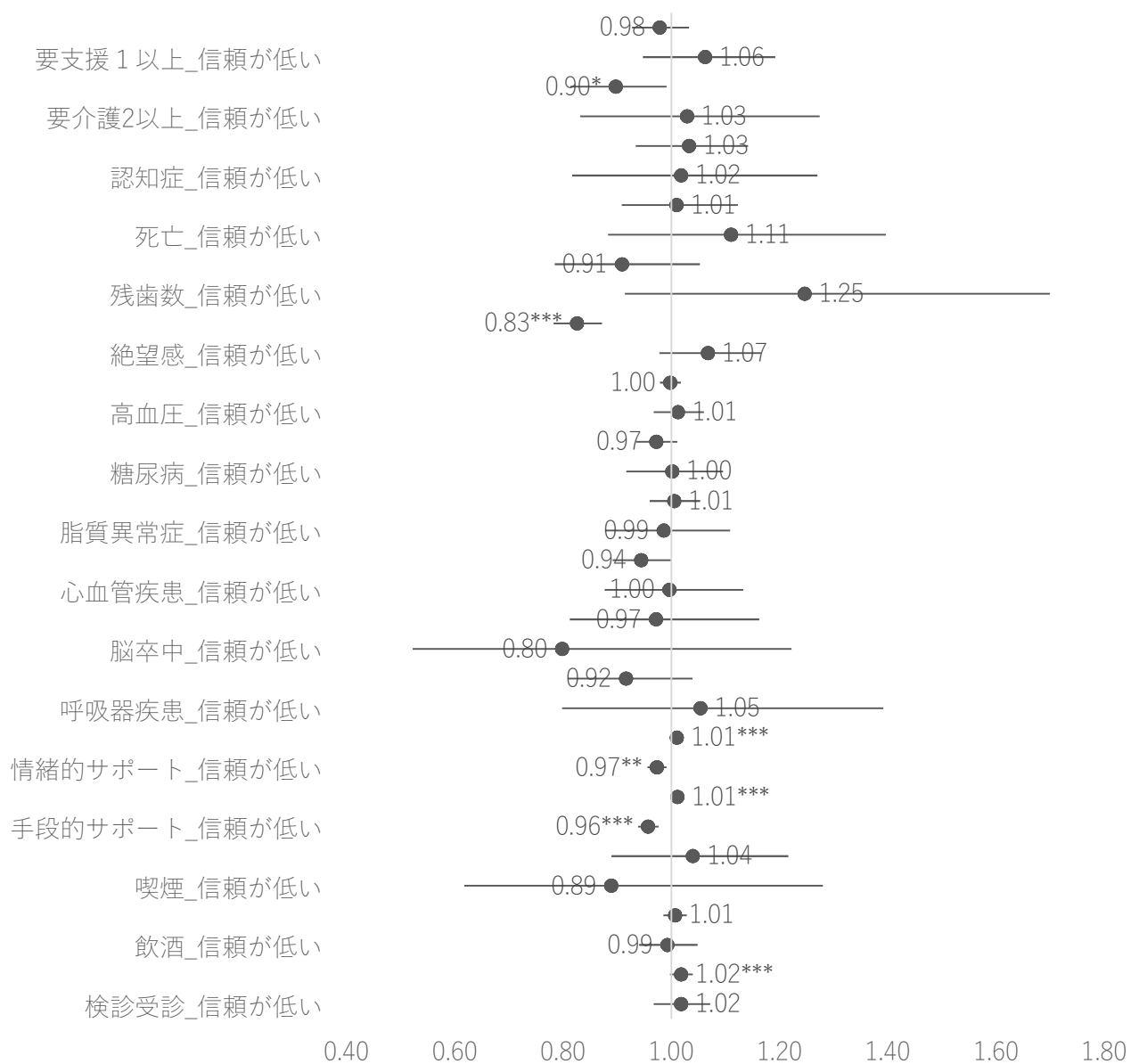


表2 本邦で用いられている主要な認知的ソーシャルキャピタル指標一覧

	設問文	解答選択肢	備考
1	あなたのお住まいの地域についておたずねします。 次のア、イの質問について、あてはまる番号を1つ選んで○印をつけて下さい。 ア あなたのお住まいの地域の人々は、お互いに助け合っている イ あなたとあなたのお住いの地域の人々とのつながりは強い	1. 強くそう思う 2. どちらかといえばそう思う 3. どちらともいえない 4. どちらかといえばそう思わない 5. 全くそう思わない	出典：令和元年国民健康・栄養調査報告
2	あなたのお住まいの地域についておたずねします。 次のア、イの質問について、あてはまる番号を1つ選んで○印をつけて下さい。 ア あなたのお住まいの地域の人々は、お互いに助け合っている イ あなたとあなたのお住いの地域の人々とのつながりがある	1. そう思う 2. どちらかといえばそう思う 3. どちらともいえない 4. どちらかといえばそう思わない 5. 全くそう思わない	出典：令和元年国民健康・栄養調査報告をもとに改変
3	あなたが望む程度に社会の人々とつながっていますか。	1. 望む程度につながっている 2. ある程度つながっている 3. 十分にはつながっていない 4. ほとんどつながっていない	出典：Public Health Outcomes Framework をもとに改変
4	あなたの住んでいる地域についておうかがいします。 1) あなたの地域の人々は、一般的に信用できると思いますか。 2) あなたの地域の人々は、多くの場合、他の人の役に立とうとすると思いますか。 3) あなたは現在住んでいる地域にどの程度愛着がありますか。	1) 1. とても信用できる 2. まあ信用できる 3. どちらともいえない 4. あまり信用できない 5. 全く信用できない 2) 1. とてもそう思う 2. まあそう思う 3. どちらともいえない 4. あまりそう思わない 5. 全くそう思わない 3) 1. とても愛着がある 2. まあ愛着がある 3. どちらともいえない 4. あまり愛着がない 5. 全く愛着がない	出典：日本老年学的評価研究（JAGES）2013以降
5	以下の項目について、どう思いますか。現在のあなたの認識をお答えください。 1. あなたの地域の人々は、一般的に信頼できる。（2021-2022-2023）	1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない その他の項目： 1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない	出典：日本における新型コロナウイルス感染症（COVID-19）問題および社会全般に関する健康格差評価研究（JACSIS）

2. あなたの地域の人々は、多くの場合、ほかの人の役に立とうとする。(2021-2022-2023) 3. あなたは現在住んでいる地域に愛着がある(2022-2023) 5. 政府は信頼できる(2021-2022-2023) その他項目： ・政府の新型コロナウイルス対策に納得できた(2021) ・現在住んでいる市区町村の行政は信頼できる(2021) ・現在住んでいる都道府県の行政は信頼できる(2021) ・国の行政・立法は信頼できる(2021) ・あなたは、地域内のご近所の方と良い関係性ができている(2022-2023) ・政府の新型コロナウイルス対策に納得している(2022-2023)		
--	--	--

令和元年国民健康・栄養調査報告：

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/eiyuu/r1-houkoku_00002.html

Public Health Outcomes Framework：<https://www.gov.uk/government/collections/public-health-outcomes-framework>

日本老年学的評価研究：<https://www.jages.net>

日本における新型コロナウイルス感染症（COVID-19）問題および社会全般に関する健康格差評価研究（JACSIS）：<https://jacsis-study.jp/index.html>

図2 認知的ソーシャルキャピタル指標（日本語版）

【問20】あなたの住んでいる地域—自宅から徒歩20分以内（約1～1.6キロメートル以内）—についてどのように感じていますか。以下の4つの問いについて、それぞれ7つのボックスのうちどれか1つにチェックを入れてください。チェックを入れる位置が近いほど、あなたがその意見に強く同意していることを示します。

記入例：☐ ☐ ☒ ☐ ☐ ☐ ☐
1 2 3 4 5 6 7

1. 私はこの地域の一員だと感じる	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	私はこの地域の一員だとは感じない
	1	2	3	4	5	6	7	
2. この地域のほとんどの人は信頼できる	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	この地域のほとんどの人は信頼できない
	1	2	3	4	5	6	7	
3. この地域のほとんどの人は友好的だ	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	この地域のほとんどの人は友好的でない
	1	2	3	4	5	6	7	
4. もしあなたが困っていたら、この地域には助けってくれる人がたくさんいる	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	もしあなたが困っていても、この地域には助けってくれる人は誰もいない
	1	2	3	4	5	6	7	